

乳がん検診、胃がん検診等に関する 議論の整理及び論点等

平成27年6月29日
健康局がん対策・健康増進課

乳がん検診に関する議論の整理 ①

- 第9回がん検診のあり方に関する検討会(平成26年9月18日)
「有効性評価に基づく乳がん検診ガイドライン」 斎藤構成員

第9回 検討会での論点

- 乳がん検診ガイドラインの概要
 - マンモグラフィ単独による乳がん検診は、40～74歳において、乳がんの死亡率減少効果を示す相応な証拠がある 等

- 第10回がん検診のあり方に関する検討会(平成26年11月13日)
「乳がん検診等の実態について」

第10回 検討会での論点

- 乳がん検診の実施状況について
 - 国の指針に基づく検診の実施状況(対象年齢、受診間隔、検診項目等) 等

乳がん検診に関する議論の整理 ②

- 第11回がん検診のあり方に関する検討会(平成27年2月5日)
「乳がん検診の精度管理におけるNPO法人
日本乳がん検診精度管理中央機構の役割」 遠藤参考人

第11回 検討会での論点

- 乳がん検診の精度管理について
 - 乳がん検診における従事者の育成状況(読影医師、撮影技師等)
 - 講習会の内容(マンモグラフィ読影、ソフトコピー診断、乳房超音波等) 等

- 第13回がん検診のあり方に関する検討会(平成27年4月23日)
「乳がん検診における新たな知見について」 祖父江構成員

第13回 検討会での論点

- 超音波検査による乳がん検診について
 - 超音波検査による乳がん検診の有効性を検証する比較試験の概要

胃がん検診に関する議論の整理 ①

- 第10回がん検診のあり方に関する検討会(平成26年11月13日)
「胃がん検診に関する検討の経緯等について」

第10回 検討会での論点

- 胃がん検診について
 - 国の指針に基づかない検診の実施状況 等

- 第11回がん検診のあり方に関する検討会(平成27年2月5日)
「有効性評価に基づく胃がん検診ガイドライン」 濱島参考人

第11回 検討会での論点

- 胃がん検診ガイドラインの概要
 - 胃エックス線検査は死亡率減少効果を示す相応の証拠がある
 - 胃内視鏡検査は死亡率減少効果を示す相応の証拠がある
 - 胃内視鏡検査の検診対象は50歳以上が望ましく、検診間隔は2～3年でも可
 - 重篤な偶発症に適切に対応できる体制が整備できないうちは実施すべきでない 等

胃がん検診に関する議論の整理 ②

- 第12回がん検診のあり方に関する検討会(平成27年3月27日)
 - 「新潟市における胃内視鏡検診」 成澤参考人
 - 「胃内視鏡検診を実施するにあたっての留意点」 渋谷参考人
 - 「胃内視鏡検診の処理能」 濱島参考人

第12回 検討会での論点

- 胃内視鏡検診の実態について
 - 新潟市における胃内視鏡検診の実態 等
- 胃内視鏡検診の実施に係る留意点
 - 対策型検診としての問題や課題
 - 偶発症とその対策
 - 必要な体制整備及び標準化 等
- 胃内視鏡検診の処理能から見た課題
 - 検査機器の供給や対象年齢、検診間隔 等

胃がん検診に関する議論の整理 ③

- 第13回がん検診のあり方に関する検討会(平成27年4月23日)
 - 「リスク層別化検診」 三木参考人
 - 「胃がんリスク評価の検討」 深尾参考人

第13回 検討会での論点

- リスク層別化検診の概要等について
 - リスク層別化検診の利点
 - リスク層別化検診の実施状況 等
- 胃がんリスク評価について
 - 高リスク群の管理体制
 - 胃がんリスク評価の効果及び有効性の評価の必要性 等

乳がん検診に関する論点案

- マンモグラフィ単独検診について
 - 40歳以上の女性において、マンモグラフィ単独検診を推奨することについて、どう考えるか
- 視触診の位置づけ
 - 40歳以上の女性において、視触診を任意とすることについて、どう考えるか
- 乳房超音波検査について
 - 40歳代の女性において、マンモグラフィと超音波検査の併用群は、マンモグラフィ単独群に比べ、感度及びがん発見率においてその有効性が示された。今後は、死亡率減少効果の検証に加え、検査機器の仕様や検査方法、読影技術や診断基準の標準化等、評価体制や実施体制について検討を行いつつ、乳がん検診における超音波検査の位置づけを整理していくことについて、どう考えるか

胃がん検診に関する論点案

- 胃エックス線検査について
 - メリット・デメリットを総合的に勘案した上で、引き続き、対策型検診として推奨してはどうか
- 胃内視鏡検査について
 - 死亡率減少効果を示す相応の証拠が確認されたが、対策型検診として推奨することについて、どう考えるか
 - 対象年齢を50歳以上とすることについて、どう考えるか
 - 検診間隔を2年とすることについて、どう考えるか
 - 安全管理を含めた体制整備(精度管理)については、日本消化器がん検診学会で作成予定の胃内視鏡検査の体制整備に係るマニュアル等を参考とすることについて、どう考えるか
- ヘリコバクター・ピロリ抗体検査等について
 - ヘリコバクター・ピロリ抗体検査及びヘリコバクター・ピロリ除菌については、胃がん対策の観点から重要であり、保険適用とされているところ。ヘリコバクター・ピロリ抗体検査及びペプシノゲン検査については、引き続き、知見の蓄積を行いつつ、がん検診との関係も含め、位置づけについて検討していくこととしてはどうか